

## 平成25年度 第3回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

### 1 日時、場所

平成26年2月27日(木)13:00～15:00 東北森林管理局第3会議室

### 2 出席者

#### 【委員】

黒瀧委員、向中野委員、澤田委員、高橋委員、庄子委員、飯島委員、菊地委員、  
山形県森連太田委員が欠席のため、同県森連中村部長がオブザーバーとして出席

#### 【東北森林管理局】

森林整備部長、資源活用課長、企画官(供給戦略担当)、企画官(木材需給対策担当)

### 3 結果

量的な供給調整は行う必要性はない。ただし今後の需給状況を注視しながら、一般材採材比率の向上・スギ合板用素材の販路拡大を検討する。

### 4 主な意見

#### (国産材需給)

- 1月中旬頃から森林組合・林業事業者の生産量が増えてきたが、絶対量は足りていない。伐採したものは全部運搬している。
- 市場では中目材が先月より落ち着いた感はある。
- 製材品の出荷量は前年比15%増加した。製品在庫がほとんどない。この状況は続くものと思われる。素材の一般材については価格は落ち着いたものの、高値で推移している。平成26年度は例年通りの早期販売をお願いする。
- 1月の末に国有林の入札があったが、12月と比べると合板材・一般材ともに応募枚数も多く、価格も上がった。宮城県で原木が足りておらず、合板を納入する業者の在庫確保の意図があったと思われる。一方で、合板会社は製品、丸太の在庫量で入荷量が変わることがあるので、注視する必要がある。
- 三陸道や沿岸の高台移転の宅地造成作業に伐採の作業班が内陸部からも派遣されており、素材生産作業員の人手不足が内陸部においても発生している。
- 輸送業者の原木専用トラック購入時の支援策が必要ではないか。
- 製材用素材の需要は職人不足や災害公営住宅建設があり引き続き需要が見込まれることから当面は大きく落ちることもないと思う。
- 木質バイオマス発電所が東北地域で数多く予定されているが、燃料材の供給に問題がでてくるのではないか。

#### (他地域への輸送・輸出)

- 北海道から秋田へカラマツ原木の出荷が一部再開した。秋田県の合板工場からカラマツの要請があった。福島県から宮城県への合板用原木出荷についても、宮城県の工場の原木不足もあり、再開している。
- 中国のLVL工場からスギのB材原木の引き合いがある。また、スギの低質材を上海向けに出したい話も聞いた。
- ポプラやホワイトウッドも原木価格が上がっている中で、日本の丸太価格が相対的に下がっている。円安が続く限りその流れは変わらないだろう。国内のマーケットが縮小していく中で、生き残っていくためには輸出を積極的にしていく必要がある。

#### (住宅関連)

- 災害公営住宅に必要な管柱の確保に目途が全く立たない。高台移転の伐採箇所では3mの丸太採材がなされておらず、簡単だからと合板用に切ってしまう。製材用は曲がりやトビグサレに厳しく価格差がつかないと製材用の採材は難しい。
- 3月～4月になると一部のハウスメーカーでは消費税駆け込みの需要が減り、プレカット工場の仕事が2～3割減る可能性がある。